

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 63 回関東大学空手道選手権大会



無観客の中、熱戦を展開する選手（男子組手の部決勝）

第63回 関東大学空手道選手権大会



王者の貫禄 帝京、3冠(男子・女子形手組)達成

日本武道館で供用再開後初の大会

第63回関東大学空手道選手権大会
(主催) 関東学生空手道連盟、後援
 全日本空手道連盟、日本武道館、
 毎日新聞社) が10月4日、供用を再
 開したばかりの日本武道館で開催さ
 れた。

大会には約400名が参加し、男女の
形と組手、計4部門が行われた。女
子組手は国士舘が帝京の7連覇を阻
止して悲願の初優勝。また、男子形、
女子形、男子組手は帝京が圧倒的な
強さで優勝し、3冠を達成した。

◆
来年夏の東京オリンピック・パ
リンピック競技大会に向けた増改修
工事のため、昨年9月から休館して
いた日本武道館で、供用再開後初の
武道大会となった。

新型コロナウイルスの感染防止の
ため、大会は無観客で行われた。さ
らに入館時の検温、マスクの着用並
びに消毒、ソーシャルディスタンス
の確保などを徹底。組手競技ではメ
ンホー(顔面防具)の着用を義務付
け、競技が終了した選手・関係者は
随時退出させるなど、入念なコロナ
対策を講じて実施された。

■組手競技

男子

試合は、男子が5人制、女子が3人制のトーナメント方式。試合時間は男女とも準決勝まで1分30秒フルタイム、決勝戦は2分フルタイム。

6ポイント差が生じた時点で試合終了とし、時間内に勝敗が決しない場合はポイントの多い方が勝者（ポイント同数の場合は「先取（先にポイントを取得）」のある方が勝者）となり、団体戦の勝敗が決した時点で終了とした。また、従来は素面で行っているが、コロナ禍での開催を考慮し、メンホー（内側にシールドを貼付）を着用した。

帝京

真向勝負で3連覇

例年、2部制で行われていたが、本年は全29校（棄権の2校を含む）によるトーナメントで行われた。



準決勝には帝京、拓殖、国士館、そしてシード校の駒澤を破った法政がそれぞれ進出した。

準決勝第1試合は帝京と拓殖の名門校同士の対決となった。帝京が先鋒から中堅まで3連勝して拓殖を圧倒、決勝に駒を進めた。

準決勝第2試合は法政と国士館の対戦。大将戦までもつれる展開となったが、法政が粘る国士館を退け、3勝2敗で勝利した。



決勝は3連覇を狙う王者帝京と、第12回大会以来、51年ぶりの優勝を目指す法政の顔合わせとなった。

先鋒戦は互いに見合う静かな展開でスタートしたが、試合時間残り30秒を切ったところで伊藤（法政2

年）が間合いを詰め、足払いで内野（帝京1年）のバランスを崩して上段突きを決め、「先取」を獲得した。さらに残り15秒、逆転を狙う内野は上段蹴りを狙うが、蹴り終わったところを伊藤が連突き。これが決まり

2-0で伊藤が勝利し、法政が先勝した。

続く次鋒戦はポイントの取り合いとなり、4-3で吉岡（法政3年）がリードするが、終盤、山本（帝京3年）の刻み突きが立て続けに決ま



決勝・次鋒戦＝帝京・山本匡悟（右）が上段突きを決めて勝利



供用再開後、初の武道大会が行われた日本武道館



決勝・中堅戦＝帝京・宮崎光（左）が倒してからの中段突きを決め、流れを引き寄せる



決勝・副将戦＝帝京・鈴木晃成（右）が刻み突きで勝利



3連覇を達成した帝京

り、5―4で逆転勝ち。帝京が対戦成績をイーブンに戻した。
1勝1敗で迎えた中堅戦、序盤は互いに見合う時間が続いたが、開始1分過ぎに宮崎（帝京3年）が上段突きで「先取」を取ると、残り時間

30秒過ぎには上段突きからの足払いで酒井（法政3年）を倒して中段突きを決め、4―0と一気に差を広げた。その後も上段突きでポイントを奪い、宮崎が5―0で勝利。帝京が王手をかけた。

後がなくなった法政は副将の泉（3年）に全てを託す。一方、勢いに乗る帝京は、ナショナルチームに所属するエースの鈴木（3年）が登場。試合序盤、鈴木が刻み突きで「先取」を取ると、試合は鈴木のパース

で進む。中盤には泉が居着いたところで上段突きを決め、2―0とした。さらに残り時間10秒を切ったところで、出合いの刻み突きを決め、3―0で試合終了。対戦成績を3勝1敗とし、大将戦を待たずに帝京が大会3連覇を達成した。

《決勝》

帝京	3―1	法政
（先）内野翔太	0―2	伊藤颯輝
（次）山本匡悟	5―4	吉岡夕雅
（中）宮崎光	5―0	酒井寛太
（副）鈴木晃成	3―0	泉光雅
（大）池田蓮		青山広樹

国士館

悲願の初優勝



初優勝に輝いた国士館

昨年より12校少ない全22校（棄権の4校を含む）によるトーナメント方式で行われた。



準決勝には帝京、日本、国際武道、国士館がそれぞれ進出した。

準決勝第1試合は、帝京と日本が対戦した。帝京は先鋒の笠原（3年）、中堅の澤島（1年）が苦しみながらも2連勝し、7年連続で決勝へ駒を進めた。

準決勝第2試合は、強豪駒澤を破って勢いに乗る国際武道と国士館の対戦となった。国士館は先鋒の永井（1年）、中堅の芳賀（4年）が2連勝し、3年連続の決勝進出を果たした。

決勝は7連覇を狙う王者帝京と初優勝を目指す国士館による3年連続の対戦となった。帝京はオーダーの3人がナショナルチーム所属という豪華メンバー、対する国士館は1年生2人をメンバーに入れて臨んだ。

先鋒戦は昨年のインターハイ準々決勝の再現となり、永井（国士館1年）と澤島（帝京1年）の対決となった。試合開始早々、永井が上段突きを決めて「先取」を獲得。澤島も中段突きで1ポイント返すが、永井はさらにポイントを重ね、3-1で永井が勝利、国士館が先勝した。

追い詰められた帝京は、昨年の学生チャンピオン、エースの澤江（2年）が中堅に登場。上段突き、そして倒しからの上段突きを決めて芳賀（国士館4年）に4-0で勝利。勝負は大将戦に持ち込まれた。

大将戦は昨年の全日本選手権大会で高校生ながら3位に入賞し、ナショナルチームにも所属している島田（国士館1年）と笠原（帝京3年）の対戦となった。島田は伸びのある刻み突きを決めて2-0とすると、追いつがる笠原を振り切って完封勝利を収めた。その結果、国士館が悲願の初優勝を遂げた。

《決勝》

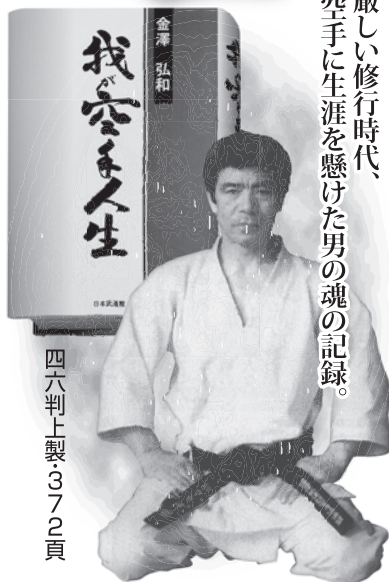
国士館	2-1	帝京
（先）永井カナナ	3-1	澤島さくら
（中）芳賀由衣	0-4	澤江優月
（大）島田さらら	2-0	笠原万保子

日本武道館 発行

我が空手人生

国際松濤館空手道連盟館長

金澤 弘和 著



四六判上製 372頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>

■形競技

第1ラウンドはA、Bグループに分かれ、各グループ上位4チームが第2ラウンドに進む（女子はチーム数の都合上、グループ分けはせず、上位6チームが第2ラウンドに進む）。第2ラウンドもA、Bグループに分かれ、各グループ1位のチームが決勝へ、2位と3位のチームが3位決定戦に進む。

男子

帝京

破竹の12連覇

昨年より1校少ない10校が参加した。11連覇中の帝京は、第1ラウンドは「エンピ」で、第2ラウンドは「五十四歩小」で圧倒的な得点を叩き出して決勝へ進出した。もう1校は第2ラウンドで山梨学院に競り勝った駒澤が10年ぶりの決勝進出を果たした。



決勝は先に駒澤が「ガンカク」を演武した。形終盤の難所である180度

回転で若干ぶれたが、28・5をマークした。続いて帝京は「ウンスー」を演武。パワー、スピードとも申し分のない力強い演武を披露。終盤のジャンプもピタリと決め、29・2の高得点をマーク。見事12連覇を達成した。

また、慶應義塾と山梨学院が3位入賞を果たした。



決勝＝「ウンスー」で高いジャンプを見せた帝京

女子

帝京

不滅の15連覇達成

昨年より1校少ない7校の参加となった。昨年まで14回連続優勝の帝

京は第1、第2ラウンドを順調に勝ち上がり、決勝進出を決めた。また、駒澤が3年ぶりの決勝進出を果たした。



決勝は先に駒澤が「五十四歩大」を演武。淀みない動きでまとめて28・4をマークし、帝京にプレッシャーをかけた。対する帝京は「ウンスー」を演武。3人の息がピタリと合ったキレのある演武で28・9をマーク。前人未踏の15連覇を達成した。また、拓殖と山梨学院が3位入賞を果たした。



決勝＝息のあった帝京の「ウンスー」

◎皆が一つになって戦えた



帝京を3冠に導いた
香川政夫監督

「皆が一つになって戦うことができた。どここの大学よりも稽古してきたと思うが、それがこの結果に繋がった。普段から自分への甘さを断ち、相手と戦う気持ちを持って稽古している選手は、本番でも実力を発揮できていた。連覇は歴代の学生たちの努力の賜物。学生は自分たちがさらに記録を塗り替えるんだという気持ちで、本当によく頑張ってくれた」

心技体人を育てる総合誌

月刊 武道



【大会結果】

■組手競技

◇男子

優勝 帝京

準優勝 法政

第3位 拓殖・国士館

◇優秀選手賞

毛利謙吾(拓殖)・関口徹昭(帝京)

山本匡悟(帝京)・宮崎 光(帝京)

鈴木晃成(帝京)・青山広樹(法政)

伊藤颯輝(法政)・須田和広(国士館)

◇女子

優勝 国士館

準優勝 帝京

第3位 国際武道・日本

◇優秀選手賞

奥田遥菜(日本)・片貝なずな(国際武道)・永井カンナ(国士館)・芳賀由依(国士館)・嶋田さらら(国士館)・角 豊美(帝京)・澤江優月(帝京)

■形競技

◇男子

優勝 帝京

準優勝 駒澤

第3位 慶應義塾・山梨学院

◇女子

優勝 帝京

準優勝 駒澤

第3位 拓殖・山梨学院



3冠を達成した帝京

日本武道館の単行本



武道における身体と心

神戸学院大学教授 前林清和 著
四六判・上製・370頁・2,400円＋税

「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ
月刊「武道」編集部 編
四六判・上製・366頁・2,400円＋税

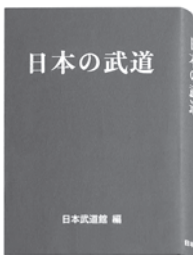
なぎなた界の基礎を築いた全国各地のなぎなた範士25名が後進の指導者・修行者へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



柔道はすばらしい

柔道塾・紀柔館館長 腹巻宏一 著
四六判・上製・310頁・2,400円＋税

ユニークなスタイルで運営されている和歌山の町道場「柔道塾・紀柔館」。柔道と勉強の両面指導、創意工夫の指導法などを豊富な写真資料で紹介。



日本の武道

日本武道館 編
B5判・上製・箱入・526頁・4,000円＋税

日本の武道のすべてを網羅した、武道関係者必携の書。一千数百年の歴史を有する武道の全容をこの一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実した資料編を巻末に収録。



今、なぜ武道か

一文化と伝統を問う
福島大学教授 中村民雄 著
四六判・上製・370頁・2,400円＋税

知っているようでよく説明できない武道のいろいろな事柄を、古今の豊富な資料をもとにわかりやすく説いた、武道事典ともなる一書。

ご注文・お問い合わせ

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>





月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。

日本武道館の雄姿

首都の夜空に輝く

日本武道館ライトアップ点灯式



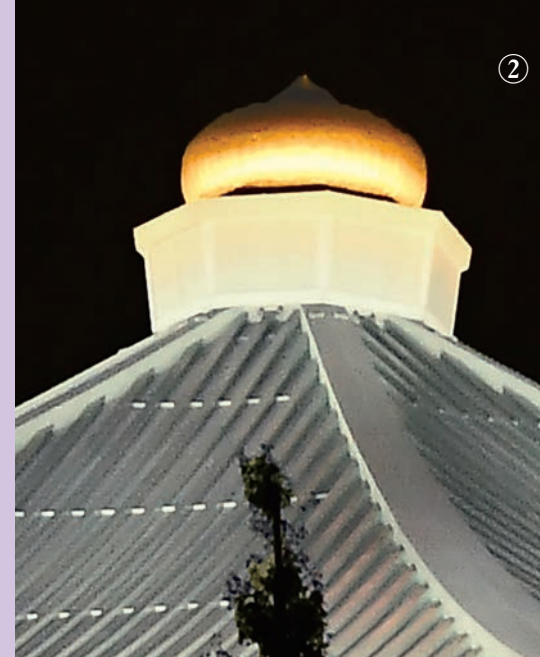
点灯のボタンを押す登壇者（左から東会長、石井代表取締役、高村会長、宮下会長）

来年夏に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた増改修工事が完了した日本武道館で9月29日、建物のライトアップ点灯式が行われた。式典には20社を超える報道機関が詰めかけ、夜空に浮かび上がった日本武道館にカメラを向けた。今後、ライトアップは毎日実施され、東京・日本のランドマークとして輝き、コロナ禍に揺れる社会を明るく照らすことが期待される。





①



②



③

【写真①】 富士山を思わせる大屋根。頂上部に向かって明るく見えるよう、光にグラデーションがかかっている、【写真②】 日本武道館本館を象徴する擬宝珠（ぎぼし）。ライトアップによってまばゆい金色の輝きを増し、日本武道館がもつ荘厳さを高める、【写真③】 本館正面にある扁額。ライトアップすることで一層の存在感を放つ、【写真④】 北の丸スクエア屋上からの展望（昼間）、【写真⑤】 写真④と同じアングルから撮影した夜の日本武道館。ビルの夜景に囲まれた静観な皇居の杜に浮かび上がる日本武道館は、新たな東京のランドマークとして輝く



④



⑤

ライトアップ点灯式は10月1日の日本武道館の供用再開に合うよう、9月29日午後6時、北の丸公園第三駐車場で開催された。照明デザインのコンセプトは、数多くの有名建築物の照明を手がけてきた株式会社石井幹子事務所が設計。これから毎日、日没から午後10時まで点灯され、東京の夜間景観の名物となる。



高村正彦
日本武道館会長

式典では、はじめに高村正彦会長が主催者挨拶を行った。

「日本武道館創建57年にして初めて建物をライトアップすることになりました。このライトアップは石井幹子先生のご提案によって始まりました。紆余曲折を経て、まさに今日実現いたしました。これが東京オリンピック、パラリンピックの道しるべになるとともに、ポストコロナの明るい社会の象徴になることを期待いたします。この実現に向けてご尽力いただいた石井幹子デザイン事務所、山田守建築事務所、竹中工務店の皆さまに心から感謝申し上げ挨拶いたします」

続いて、石井幹子代表取締役よりデザインコンセプトの説明があった（詳細は次ページ）。

その後、待望の点灯が行われた。高村会長、石井代表取締役、そして



点灯式の様子



点灯式には多くの報道陣が詰めかけた

構造設計等を行った山田守建築事務所の東清仁代表取締役会長、施工を担当した竹中工務店の宮下正裕取締役会長の4名が登壇。施設課職員の合図に合わせて卓上のボタンを押すと大屋根・段床裏・扁額の照明が一斉に点灯した。

夜空に輝く日本武道館に、集まった報道関係者は一斉にカメラのレンズを向けていた。時折、本格的な秋風が吹くなか、ライトアップ点灯式は無事、幕を閉じた。

閉式後には石井幹子氏と吉川英夫日本武道館理事・事務局長の両氏による個別の記者説明が行われた。報道記者は日本武道館初となるライトアップについて様々な質問を寄せていた。



ライトアップされた日本武道館の前で談笑する登壇者

優しく美しく、希望を感じる明かりとなることを期待して



（株）石井幹子デザイン事務所代表取締役・石井幹子氏がデザインコンセプトを説明

この度、日本のランドマークとも言える日本武道館の建物の景観照明を担当させていただき、大変光栄に存じます。北の丸公園の暗い森の中で佇んでいる建物が光を浴びて皆さまの目の前に現れるこの日を待ち焦がれていました。

コンセプトは、まず日本の武道を象徴するものであること、首都東京のランドマークとして相応しいもの、そして日本の光文化を継承し、建築の素晴らしさを照らし出すものであることです。なおかつ、省エネに配慮して維持管理が容易であることも心がけました。

デザインでは、日本人が古来、憧れを持っている満月に照らされた霊峰富士をイメージしました。大屋根は、できる限り照明器具を隠し、どこから光が出ているかわからないほ

どの最新技術を駆使して清らかな満月の光、そして日本の武道を象徴する光を再現することに注力いたしました。頂上の金色の擬宝珠には、日本初となる金色のLEDの光を照射しています。そしてこの建物の特徴である段床裏屋根を支えている軒下にも明かりを当てています。さらに西口正面玄関の扁額看板にも照明を付け、存在感を強調しました。

照明にはできる限りの省エネを心がけるとともに、当てたい部分に当てたいだけの光が当たる設計となっております。全体で163灯、計4・7キロワットの器具を設置し、1時間当たりの電気代は90円弱という経済的な照明となりました。

近年、カラフルなライトアップが注目されていますが、日本武道の象徴として、この明かりが変化することなく唯一無二のものになると考えています。そして日本の光文化を継承して皆様の心の中に優しく美しくそして希望を感じさせる明かりとなることを期待いたします。

○ライトアップの概要

・擬宝珠

日本武道館の頂点にある擬宝珠に向け、世界初の金色LED投光器を大屋根の外側端部に設置。夜間でもまばゆい金色に輝かせることができ、荘厳な印象を高めている。

・大屋根

17センチ角の超小型のLED投光器が配置されており、頂部に向かって明るくなるようにグラデーションの光で照らし、満月の光を浴びたかのような幻想的な雰囲気を醸し出している。

・段床裏

段床裏は大きな梁型（はりがた）と共に重要な建築要素となっている。八角形のコーナー部分を照らし、剛健なイメージを演出している。

・扁額

日本武道館の象徴の一つとして西口正面にある正力松太郎初代会長の揮毫による扁額は、下端にライン状のLED器具を設置。下から照らすことで一層の存在感を演出している。

○照明措置概要

擬宝珠照明	16台	0.168キロワット
大屋根照明	120台	3.6 キロワット
段床裏照明	15台	0.645キロワット
扁額照明	4台	0.082キロワット
消費電力合計		4.735キロワット

※1日の点灯時間を約4時間（日没～22時）、電気料金を約20円/kWhで換算すると、一晚の電気代は約380円になる見込みです。



閉式後、報道陣の質問に答える石井氏



(右) 扁額の除幕を行う高村会長
(上) 増改修工事記念プレートに記した白井理事長(右)と
揮毫を行った宮澤鷺州氏による記念撮影



9月29日、点灯式と同日、日本武道館中道場棟の掲示物除幕式が午前10時より職員・関係者が出席して行われた。日本武道館増改修工事の完了を記念した4点の掲示物が10月1日の供用再開に合わせて中道場棟に掲示され、施設の「顔」として今後、来場者を迎える。

最初に扁額の除幕が行われた。扁額は高村正彦日本武道館会長が「誠」の文字を揮毫した。施設課職員の合図に合わせて高村会長が曳綱を行うと、職員から大きな拍手が送られた。

続いて、白井日出男日本武道館理事長によるオリンピック・パラリンピック増改修工事の経緯をまとめたプレートの除幕が行われた。プレートの本文原案は白井理事長が作成し、宮澤鷺州氏が揮毫した。プレートの中には、増改修工事等の関係資料が納められており、日本武道館増改修工事の経緯を保存する役目も担っている。

このあと、本誌表紙絵でおなじみの中村麻美先生による絵画の除幕が行われた。除幕後、中村先生が作品への思いなどを語った(詳細は次ページ)。絵画は100号の大きなキャ



「誠」の扁額と中村先生の絵画の前で
記念撮影の高村会長(左)と白井理事長

ンバスに立派な甲冑武者が描かれている。目線は大道場の方を向き、まさに武者として日本武道館を守護しているように見える。

最後に、「宮本卯之助商店」第7代会長の宮本卯之助氏による大太鼓の除幕が行われた。太鼓は、今後、武道行事の際に使用される。側面には高村会長揮毫の「誠」の文字が掘られており、除幕後に宮本会長が太鼓について説明した(詳細は次ページ)。

最後に、道衣姿の古川圭太業務課職員が大太鼓を叩き、ホール全体に力強い音を響き渡らせ、式典を締めくくった。

高村会長揮毫の「誠」の扁額



中道場棟に「魂」宿る

扁額、プレート、武者絵、大太鼓を除幕

○絵画作成にあたり

中村麻美先生

新生日本武道館、中道場棟の完成、誠におめでとうございます。皆様のご支援のもと、仕事を頂戴いたしました。作品を前に胸がいっぱいです。

この作品は、中道場が建設される前に、三藤芳生理事・事務局顧問（前常勤理事・事務局長）から「中村先生が思い描く理想の武士像を表現していただきたい」と依頼されたことにより、吉川現理事・事務局長より「動じない武士の心を描き上げてください」と力強い言葉を頂戴



精魂込めた武者絵と共に記念撮影する中村先生

しました。私自身、こうした時勢の中で、武道館で働く皆さまから見せていただいた不撓不屈の力を絵に込め、最後まで力を振り絞り、この絵を完成させることができました。また、この甲冑の考証には日本甲冑武具研究保存会の西岡文夫先生にご指導いただき、細部まで正確に表現できたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

この良き日に、日本の武道、そして日本武道館の繁栄を願うとともに、幾多の困難を乗り越え、ここまでに尽力されている皆さまの素晴らしいお姿に最上級の敬意を払い、お言葉とさせていただきます。

○太鼓製作にあたり

宮本卯之助第七代会長

この度は日本武道館へ大太鼓を納めることができ、大変光栄に思っております。

当社は日本武道館が建設された当初、大太鼓を納めさせていただきました。そこから56年の時を経て、武道館の新たな門出に再び大太鼓を納めることとなりました。この太鼓は樹齢数100年の木目が大変美しい樺を使用し、皮には丈夫な牛皮を用いております。製作者の代表としてこの太鼓が武道の普及・奨励のため、役立つことを期待しております。



木目の美しい樺を使用した大太鼓と宮本会長



閉式で力強い音を響かせた大太鼓

オリンピック・パラリンピック 増改修工事竣工祝い品贈呈式



贈呈された目録を手記念撮影（左から宮下会長、高村会長、東会長）



寄贈された木製サークルベンチと木製チェア（8脚）

ライトアップ点灯式に先立ち、午後5時30分より、日本武道館の増改修工事の完了に伴い、山田守建築事務所代表の東清仁取締役会長と竹中工務店の宮下正裕取締役会長の連名で木製サークルベンチ、木製チェア1式が贈呈された。

贈呈式では両会長より目録が読み上げられ、高村正彦日本武道館会長へ目録が手渡された。その後、増改修工事の関係者全員で写真撮影を行い、閉式となった。

寄贈されたベンチ、チェアは中道場棟1階ホールに設置される。



増改修工事関係者による記念撮影



目録が渡された贈呈式